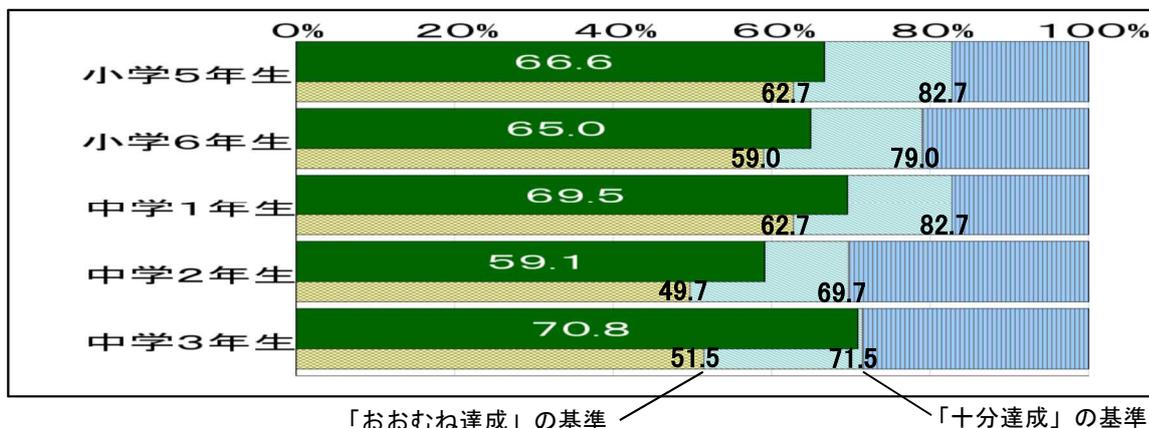


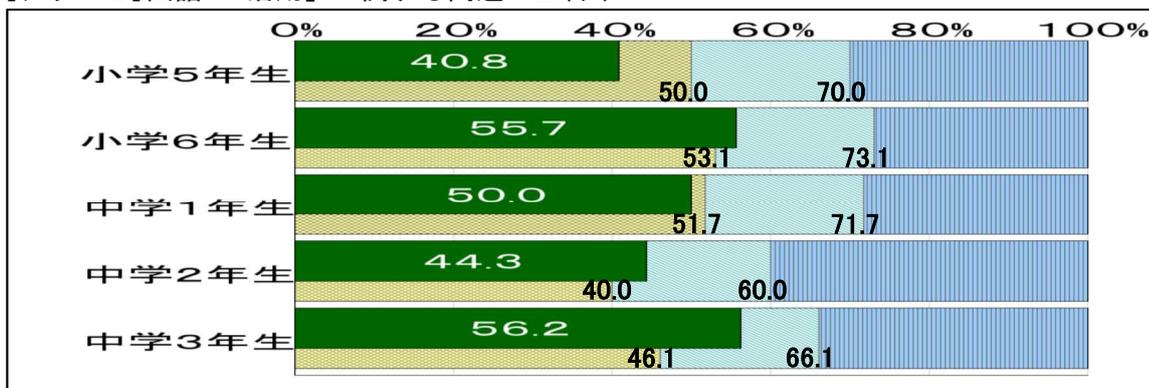
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。
[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学5年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、中学2年生と中学3年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「知識・理解・技能」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、中学3年生は、「十分達成」を上回っている。「読む能力」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「書く能力」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]
- 内容・領域別に見ると、「語句に関する知識」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「漢字の読み」については、小学5年生と中学3年生で「十分達成」を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「漢字の書き」については、中学3年生で「十分達成」の基準を上回っており、中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～11]

[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率



[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率

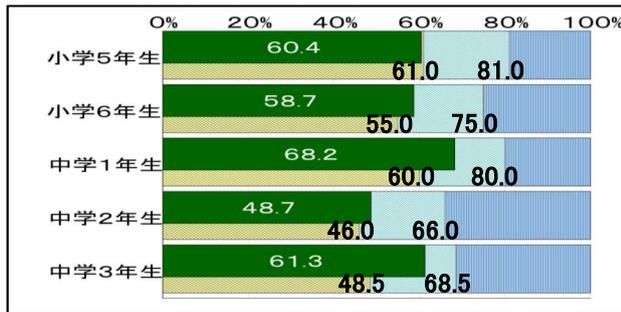


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



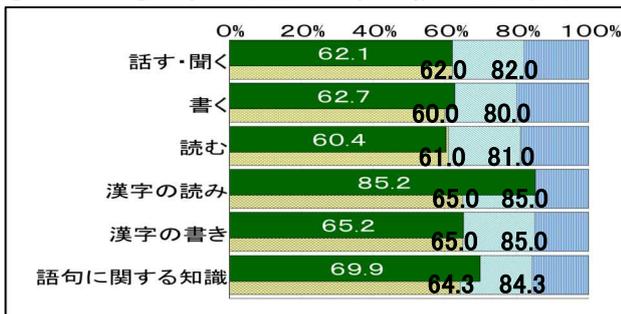
[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



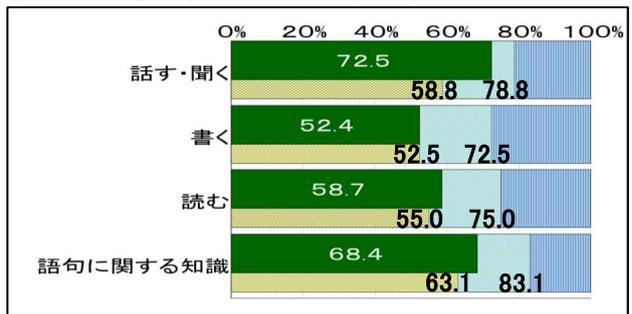
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



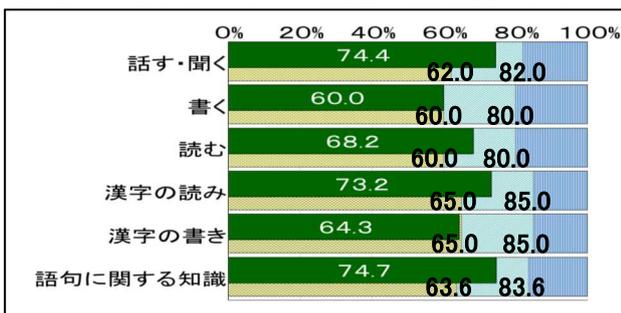
[グラフ7] 小学5年生 内容・領域別正答率



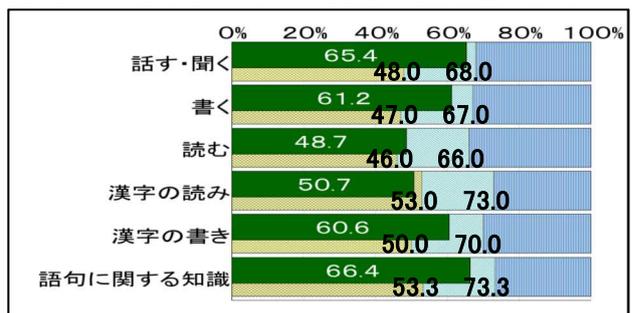
[グラフ8] 小学6年生 内容・領域別正答率



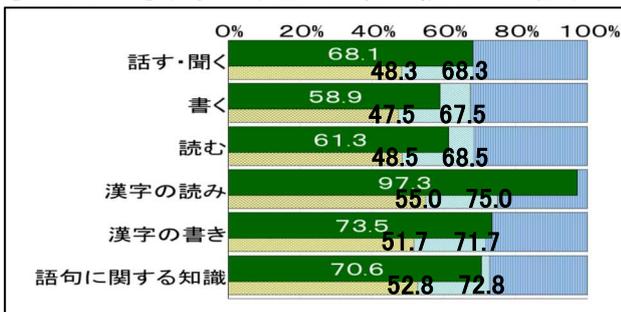
[グラフ9] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学3年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ8]について

「漢字の読み」「漢字の書き」については、今年度、出題されていない。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 平成29年度[4月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える」ことを問う設問が、「おおむね達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。
(小学5年生[3]一、中学1年生[3]一二)
- ◇ 司会の役割を考えながら話し合いを進めることや、司会の役割に基づいて計画的に話し合うことができている。
(小学5年生[1]二、中学1年生[1]一)
- ◇ 国語辞典の使い方や慣用句の意味、熟語の構成について理解できている。
(小学5年生[5]五、小学6年生A問題[6]、中学1年生[5]三123)
- ◆1 自分の考えを明確にして話したり、自分の立場を明確にして理由を挙げながら話したりすることに課題が見られる。
(小学5年生[1]四、中学1年生[1]五)
- ◆2 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書いたり、資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書いたりすることに課題が見られる。
(小学6年生B[2]二、中学1年生[2]五)
- ◆3 文の中における主語と述語との関係を捉えることに一部課題が見られる。
(小学5年生[5]三1、小学6年生A[5]、中学1年生[5]五12)

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]Web報告書 参照
指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 自分の考えや立場を明確にしながらか話し力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童が目的と意図を理解してから、話したり聞いたりする活動に取り組んでいますか。
 - 発表原稿やスピーチメモなどの模範となる例を示すことで、構成の仕方について児童が理解できるようにしていますか。
 - 声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体や常体との使い分けなど、その場に応じた適切な表現の仕方について指導していますか。
 - 話す活動の後に、自分の発言や友達の発言について、話の構成や内容、話し方などの評価の観点を明確にして振り返る時間を授業に位置付けていますか。

- ◆2 資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書いたり、話の中心を明確にして詳しく書いたりする力を育成するためには、書く活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 何のために引用するのかという目的や、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にするなど、児童が書く目的や意図を理解できるようにしていますか。
 - 教師が書いた文章や教科書の例文などのモデルとなる文章を提示し、どの児童も書くことができるようにしていますか。
 - 「○字以内で書く」、「○分以内で書く」といった字数や時間だけでなく、書き出しを指定して書かせるなど、条件を与えて書く活動を授業に位置付けていますか。
 - 自分が書いた文章を児童自身が推敲するだけでなく、互いに読み合っよよいところを伝え合う活動を授業に位置付けていますか。

- ◆3 文の中における主語と述語との関係を捉える力を育成するためには、書く活動や読む活動などで、次のような指導を行うことが大切です。
 - 読む活動では、述語に照応する主語を見付けたり、主語が省略されている文に主語を補ったりするようにしていますか。
 - 書く活動では、書いた文の主語と述語が照応しているかを、児童自身で確かめたり、互いに読み合っよよ確かめたりするようにしていますか。
 - 単文・重文・複文といった文の構造や、呼び掛けや疑問、推定や伝聞を表す文の性質や機能など、いろいろな文の構成に気付くような場を設定していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校国語（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 全体と部分に注意して話を構成したり、話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたりすることができている。(中学2年生¹三、中学3年生A¹一)
- ◇ 伝えたい事柄について効果的に記述したり、書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成したりすることができている。(中学2年生²三、中学3年生A²一)
- ◆ 1 話題を捉えて相手の発言を注意して聞いたり、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話したりすることに一部課題が見られる。(中学2年生¹四、中学3年生B²三)
- ◆ 2 表記を確かめて正しい文にしたり、内容を整理して書いたりすることに一部課題が見られる。(中学2年生²二、中学校3年生B¹三)
- ◆ 3 文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広くしたり、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたりすることに課題が見られる。(中学2年生³三、中学3年生B¹一)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 話題を捉えて相手の発言を注意して聞いたり、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話したりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 話を聞く場面や話合いの場面で、相手が何を伝えようとしているのかを話のまとまりごとに整理するような言語活動を授業に位置付けていますか。
 - 例えば全校集会で行われた校長先生の話について要旨をまとめさせるなど、日常生活の中の話に注意して聞くことができるような機会を授業に位置付けていますか。
 - 対話や話合いの場面では、相手の伝えたいことと、それを支える部分の関係を検討し、納得したり、合意形成したりできるように指導していますか。

- ◆ 2 表記を確かめて正しい文にしたり、内容を整理して書いたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 書いたものについて、生徒自身が読み直すだけでなく、推敲の手引きなどを基にして、互いに修正したり訂正したりするような活動を授業に位置付けていますか。
 - 必要な条件や情報を教材から抜き出し、整理した上で目的に応じて再構成するような学習活動を授業に位置付けていますか。

- ◆ 3 文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広くしたり、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「指導事項」「言語活動」「単元を中心となる思考操作」を明示した学習課題を設定し、生徒が自分の問いをもって読み進めることができるようにしていますか。
 - 少人数のグループで生徒の考えを引き出し、学級全体でつなぐような話し合う活動を授業に位置付けていますか。
 - 文章を図表と関連付けながら読んだり、思考ツールなどを活用して文章を図化したりする活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,469	66.6	3.5	82.7	62.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	62.1	0.8	82.0	62.0	
	書く	5	62.7	1.3	80.0	60.0	
	読む	5	60.4	2.7	81.0	61.0	▼
	漢字の読み	3	85.2	2.9	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	65.2	5.0	85.0	65.0	
	語句に関する知識	7	69.9	7.4	84.3	64.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	62.1	0.8	82.0	62.0	
	②書く	5	62.7	1.3	80.0	60.0	
	③読む	5	60.4	2.7	81.0	61.0	▼
	④知識・理解・技能	13	72.3	5.8	84.6	64.6	
問題形式	選択式	15	70.1	1.4	84.0	64.0	
	短答式	10	69.2	6.7	84.5	64.5	
	記述式	3	40.8	3.7	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	40.8	3.7	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	司会の役割を考えて話し合いを始める	○					○					62.2	0.4	85	65	▼
1	二	司会の役割を考えながら話し合いを進める	○					○					85.6	0.3	85	65	◎
1	三	自分の考えと比較しながら聞く	○					○					75.4	0.4	85	65	
1	四	自分の考えを明確にして話す	○					○					47.2	0.7	85	65	▼
1	五	理由を明確にして、話す内容を構成する	○					○			○	○	39.9	2.3	70	50	▼
2	一	目的に応じて、計画的に書く	○					○					37.8	0.4	80	60	▼
2	二	目的に応じて、内容の中心を明確にして書く	○					○					87.9	0.4	85	65	◎
2	三	目的に応じて、書くために必要な事柄を調べるための計画を立てる	○					○					60.2	0.9	80	60	
2	四	目的に応じて、理由を挙げて自分の考えを書く	○					○			○	○	57.8	3.6	70	50	
2	五	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする	○					○					69.6	1.2	85	65	
3	一	叙述を基に、登場人物の気持ちの移り変わりを捉える	○					○					89.0	0.5	80	60	◎
3	二	叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える	○					○					69.1	0.7	85	65	
4	一	文章の内容を的確に捉える	○					○			○		59.8	4.6	85	65	▼
4	二	文章全体の内容と構成を捉える	○					○			○		59.2	2.2	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み 漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
4	三	文章の内容を踏まえ、引用や要約をする		○				○			○	○	24.7	5.3	70	50	▼	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「熱湯」			○				○				83.0	3.0	85	65		
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「救助」			○				○				89.3	2.1	85	65	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「省く」			○				○				83.3	3.6	85	65		
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「家族」				○				○			69.2	4.0	85	65		
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「列車」				○				○			65.3	6.6	85	65		
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「寒い」				○				○			61.2	4.4	85	65	▼	
5	三1	文の中における主語を捉える					○			○			59.9	2.7	85	65	▼	
5	三2	文の中における主語を捉える					○			○			74.8	2.7	85	65		
5	四	ことわざの意味と使い方について理解する「宝の持ちぐされ」					○			○			80.8	3.9	85	65		
5	五	国語辞典の使い方を理解する					○			○			92.3	3.4	85	65	◎	
5	六①	ローマ字で書く「uta」					○				○		53.1	11.1	85	65	▼	
5	六②	ローマ字で表記されたものを読む「じっけん」					○				○		57.2	15.4	80	60	▼	
5	六③	ローマ字で表記されたものを読む「しろ」					○				○		70.9	12.5	85	65		

[表2] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,380	65.0	2.2	79.0	59.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	4	72.5	1.2	78.8	58.8	
	書く	6	52.4	3.0	72.5	52.5	▼
	読む	4	58.7	2.6	75.0	55.0	
	語句に関する知識	8	68.4	3.1	83.1	63.1	
評価の観点	①話す・聞く	4	72.5	1.2	78.8	58.8	
	②書く	6	52.4	3.0	72.5	52.5	▼
	③読む	4	58.7	2.6	75.0	55.0	
	④知識・理解・技能	8	68.4	3.1	83.1	63.1	
問題形式	選択式	16	71.9	1.7	80.9	60.9	
	短答式	1	32.8	2.7	80.0	60.0	▼
	記述式	3	38.9	4.9	68.3	48.3	▼
活用	「活用」に関する問題	8	55.7	2.5	73.1	53.1	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
A 問題	1	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	○				○				○		90.1	0.0	85	65	◎
	2	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える		○				○			○		71.7	0.2	80	60	
	3	目的に応じて必要な情報を捉える			○				○		○		73.0	0.1	80	60	
	4	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える			○				○		○		72.0	0.2	85	65	
	5	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く			○					○			32.8	2.7	80	60	▼
	6	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う			○					○			90.5	0.7	80	60	◎
	7	相手や場面に応じて適切に敬語を使う			○					○			60.7	1.5	80	60	
	8	ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○					○			74.8	3.2	85	65	
	8	イ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○					○			82.8	4.0	85	65	
	8	ウ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○					○			83.5	4.0	85	65	
8	エ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○					○			67.5	4.3	85	65		
8	オ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○					○			54.6	4.5	85	65	▼	
B 問題	1	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	○					○			○		81.6	0.0	80	60	◎
	1	二 計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	○					○			○		74.1	0.2	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	三	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	○	○								○	○	44.3	4.5	70	50	▼
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える		○							○		○	56.6	0.9	75	55	
2	二	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く		○								○	○	30.4	1.8	70	50	▼
2	三	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える		○							○		○	69.1	2.1	75	55	
3	一	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む			○						○		○	47.7	1.8	70	50	▼
3	二	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む	○	○								○	○	42.0	8.5	65	45	▼

[表3] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,033	69.5	3.4	82.7	62.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	74.4	0.5	82.0	62.0	
	書く	5	60.0	2.5	80.0	60.0	
	読む	5	68.2	2.1	80.0	60.0	
	漢字の読み	5	73.2	2.7	85.0	65.0	
	漢字の書き	5	64.3	9.8	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	7	74.7	2.9	83.6	63.6	
評価の観点	①話す・聞く	5	74.4	0.5	82.0	62.0	
	②書く	5	60.0	2.5	80.0	60.0	
	③読む	5	68.2	2.1	80.0	60.0	
	④知識・理解・技能	17	71.2	4.9	84.4	64.4	
問題形式	選択式	17	75.3	1.6	83.2	63.2	
	短答式	11	68.5	6.0	85.0	65.0	
	記述式	4	47.6	3.7	73.8	53.8	▼
活用	「活用」に関する問題	3	50.0	3.8	71.7	51.7	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式		十分達成
1	一	司会の役割に基づいて計画的に話し合う	○					○							87.6	0.2	85	65	◎
1	二	司会の役割を考えながら話し合う	○					○							82.3	0.3	85	65	
1	三	目的や意図に応じて、発言の構成を工夫しながら場に応じた適切な言葉遣いで話す	○					○							77.6	0.3	85	65	
1	四	発言の意図をはっきりさせながら話し合う	○					○							75.4	0.6	85	65	
1	五	自分の立場を明確にして、理由を挙げながら話す	○					○				○	○	48.9	1.0	70	50	▼	
2	一	表現したものを確かめ、よりよい表現に書き直す	○						○				○	65.5	3.3	85	65		
2	二	グラフを基にして、自分の考えが伝わるように書く	○						○					67.4	0.4	80	60		
2	三	相手が読んで理解しやすいように、よりよい表現に書き直す	○						○				○	40.3	3.5	80	60	▼	
2	四	文章全体の構成の効果を考えて、自分の考えを明確に表現する	○						○					85.5	1.2	85	65	◎	
2	五	資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書く	○						○			○	○	41.2	4.4	70	50	▼	
3	一	叙述を基に場面の描写を捉える	○						○					78.8	0.8	85	65		
3	二	登場人物の心情を表している描写を捉える	○						○					77.4	1.0	80	60		
4	一	接続語に注意して読み、事実と事実の関係を捉える	○						○					62.9	1.2	80	60		
4	二	文章の内容を的確に押さえる	○						○					62.3	1.5	80	60		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	
4	三	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、様式に合わせてまとめる		○					○			○	○	59.8	6.1	75	55	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「覚める」			○				○		○			95.3	1.2	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「復旧」			○				○		○			90.9	1.6	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「経る」			○				○		○			60.2	2.6	85	65	▼
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「帰省」			○				○		○			53.2	4.2	85	65	▼
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「散布」			○				○		○			66.3	4.1	85	65	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「保つ」				○			○		○			79.7	10.4	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「敗れた」				○			○		○			65.9	5.8	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「快晴」				○			○		○			58.6	10.3	85	65	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「夕刊」				○			○		○			52.3	14.8	85	65	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「建築」				○			○		○			65.0	7.8	85	65	
5	三1	熟語の構成について理解する「無」					○		○		○			93.3	2.3	85	65	◎
5	三2	熟語の構成について理解する「未」					○		○		○			92.6	2.4	85	65	◎
5	三3	熟語の構成について理解する「不」					○		○		○			92.5	2.4	85	65	◎
5	四	漢字の由来について理解する「上」					○		○		○			42.3	3.3	80	60	▼
5	五1	文の中における主語を捉える					○		○		○			82.3	3.2	85	65	
5	五2	文の中における主語を捉える					○		○		○			53.9	3.4	85	65	▼
5	六	ことわざの意味と使い方を理解する「絵にかいたもち」					○		○		○			66.3	3.4	80	60	

[表4] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,038	59.1	8.4	69.7	49.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	65.4	3.0	68.0	48.0	
	書く	5	61.2	3.8	67.0	47.0	
	読む	5	48.7	7.3	66.0	46.0	
	漢字の読み	5	50.7	11.2	73.0	53.0	▼
	漢字の書き	5	60.6	19.8	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	66.4	5.8	73.3	53.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	65.4	3.0	68.0	48.0	
	②書く	5	61.2	3.8	67.0	47.0	
	③読む	5	48.7	7.3	66.0	46.0	
	④知識・理解・技能	16	59.7	11.9	72.2	52.2	
問題形式	選択式	10	64.3	2.0	70.5	50.5	
	短答式	15	58.4	12.3	72.0	52.0	
	記述式	6	52.3	9.4	62.5	42.5	
活用	「活用」に関する問題	4	44.3	11.3	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成		おおむね達成
1	一	取材した材料を基に話題を決める	○					○				○	○	53.2	6.5	60	40	
1	二	相手が言いたいことを確かめ、必要な情報を聞き出す	○					○			○			66.1	0.4	70	50	
1	三	全体と部分に注意して話を構成する	○					○			○			82.9	0.4	70	50	◎
1	四	話題を捉えて相手の発言を注意して聞く	○					○			○			54.4	0.5	70	50	
1	五	相手や場に応じた言葉遣いで話す	○					○			○			70.6	7.1	70	50	◎
2	一	集めた材料を分類、整理して文章を構成する	○					○			○			76.9	0.5	75	55	◎
2	二	表記を確かめて正しい文にする	○					○			○			55.6	2.1	70	50	
2	三	伝えたい事柄について効果的に記述する	○					○			○			65.6	3.8	65	45	◎
2	四	書いた文章の材料の用い方について話し合い、表現の参考にする	○					○			○			57.6	1.7	65	45	
2	五	自分の考えを根拠を明確にして書く	○					○			○	○		50.7	10.6	60	40	
3	一	文章の展開を読み取る	○					○			○			53.8	1.9	70	50	
3	二	中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要約する	○					○			○	○		42.8	16.1	60	40	
3	三	文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広くする	○					○			○	○		30.7	12.1	60	40	▼
4	一	登場人物の心情や行動に注意して読む	○					○			○			62.1	3.0	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	二	表現の特徴について、自分の考えをもつ		○				○			○			54.2	3.6	70	50	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「縦横」			○				○		○			63.8	12.6	70	50	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「類(い)」			○				○		○			33.6	13.6	70	50	▼
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「設営」			○				○		○			76.7	5.8	75	55	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「快(い)」			○				○		○			65.4	8.3	75	55	
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「養蚕」			○				○		○			14.2	15.7	75	55	▼
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「精密」				○			○		○			46.0	22.1	70	50	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「縮(んだ)」				○			○		○			78.0	15.0	70	50	◎
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「敬(う)」				○			○		○			53.7	27.1	70	50	
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「改善」				○			○		○			48.3	24.5	70	50	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「磁石」				○			○		○			77.1	10.2	70	50	◎
5	三	文の成分について理解する					○			○	○			42.0	8.5	70	50	▼
5	四	漢字の成り立ちについて理解する					○			○	○			61.7	3.4	70	50	
5	五	行書で書かれた文字を、字形を整え、配列などを理解して楷書で書く					○			○	○			90.7	2.9	75	55	◎
5	六1	歴史的仮名遣いについて理解する					○			○	○			55.2	8.4	75	55	
5	六2	文語のきまりを知り、古文と現代語訳を読み比べて、内容を理解する					○			○	○			75.3	7.2	75	55	◎
5	六3	古文を読むときに、主語を押さえながら読む					○			○	○			73.2	4.7	75	55	

[表5] 中学3年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,079	70.8	3.2	71.5	51.5	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	6	68.1	3.7	68.3	48.3	
	書く	6	58.9	4.2	67.5	47.5	
	読む	10	61.3	2.3	68.5	48.5	
	漢字の読み	3	97.3	1.1	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	3	73.5	16.2	71.7	51.7	◎
	語句に関する知識	16	70.6	2.8	72.8	52.8	
評価の観点	①話す・聞く	6	68.1	3.7	68.3	48.3	
	②書く	6	58.9	4.2	67.5	47.5	
	③読む	10	61.3	2.3	68.5	48.5	
	④知識・理解・技能	22	74.6	4.4	73.0	53.0	◎
問題形式	選択式	27	73.2	0.6	72.8	52.8	◎
	短答式	11	73.2	8.1	71.8	51.8	◎
	記述式	3	40.3	9.3	58.3	38.3	
活用	「活用」に関する問題	9	56.2	3.3	66.1	46.1	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	
A 問題	1	—	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	○										87.5	0.1	70	50	◎
	2	—	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する		○									89.6	0.3	75	55	◎
	2	二	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすくわかるように書く		○							○		60.4	3.2	70	50	
	3	—	文脈の中における語句の意味を理解する			○								87.2	0.2	75	55	◎
	3	二	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			○								79.7	0.2	70	50	◎
	4	—	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する		○									60.1	0.2	75	55	
	4	二	段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする		○									76.7	0.3	70	50	◎
	5	—	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる			○								71.4	0.4	70	50	◎
	5	二	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			○								59.5	0.3	75	55	
	6	—	話合いの話題や方向を捉える		○									70.9	0.7	75	55	
	6	二	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す		○							○		59.2	14.1	65	45	
	7	—	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える				○					○		86.2	0.6	70	50	◎
	7	二	接続詞の働きについて理解する				○					○		87.2	1.0	75	55	◎
	8	—1	文脈に即して漢字を正しく書く				○						○	77.1	13.9	70	50	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み書き	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能				選択式	記述式	
8	一2	文脈に即して漢字を正しく書く				○			○		○		72.8	14.6	75	55	
8	一3	文脈に即して漢字を正しく書く				○			○		○		70.8	20.1	70	50	◎
8	二1	文脈に即して漢字を正しく読む				○			○		○		96.2	1.7	75	55	◎
8	二2	文脈に即して漢字を正しく読む				○			○		○		97.9	0.7	75	55	◎
8	二3	文脈に即して漢字を正しく読む				○			○		○		97.6	0.9	75	55	◎
8	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○			○		○		75.4	0.9	75	55	◎
8	三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○			○		○		89.5	0.6	75	55	◎
8	三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○			○		○		90.6	0.7	75	55	◎
8	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○			○		○		30.4	0.8	70	50	▼
8	三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○			○		○		59.9	1.0	75	55	
8	三カ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○			○		○		64.9	1.0	75	55	
8	三キ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○			○		○		94.7	1.0	75	55	◎
8	四1	慣用語の意味を理解する				○			○		○		94.6	0.9	75	55	◎
8	四2	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く				○			○		○		19.6	7.7	65	45	▼
8	五	行書の基礎的な書き方を理解して書く				○			○		○		59.6	1.5	75	55	
8	六1	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える				○			○		○		91.0	5.4	75	55	◎
8	六2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				○			○		○		63.1	7.1	75	55	
8	六3	古典に表れたものの見方や考え方を理解する				○			○		○		77.1	2.3	75	55	◎
B 問題	1	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える				○			○		○		44.2	0.1	70	50	▼
	1	文章の構成や展開について自分の考えをもつ				○			○		○		61.1	0.1	70	50	
	1	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く				○	○		○	○		○	20.8	7.8	55	35	▼
2	一	質問の意図を捉える	○						○		○		84.1	0.2	70	50	◎
2	二	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	○						○		○		54.3	6.7	60	40	
2	三	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	○						○		○		52.4	0.5	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
3	一	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する		○				○		○		○	77.9	0.4	70	50	◎	
3	二	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる		○				○		○		○	64.9	0.4	70	50		
3	三	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く	○	○			○	○	○		○	○	45.6	13.5	60	40		

(4) 地域別の状況

- 県内5地域の国語の学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、依然として地域間の学力差はみられる状況にあるが、5学年中3学年で、昨年度と比べて地域差が縮小している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、学年によって差はあるものの、全ての学年・地域で、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ12]

[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	国語	H30	1.01	0.99	0.99	1.01	0.98	縮 0.03
	H29	1.03	0.97	0.95	1.00	1.06	▲ 0.11	
小学校6年生	国語	H30	1.00	1.02	0.98	1.01	0.97	縮 0.05
	H29	1.01	1.02	0.96	0.98	1.02	0.06	
中学校1年生	国語	H30	0.98	1.02	0.99	1.02	0.99	縮 0.04
	H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.99	0.05	
中学校2年生	国語	H30	0.99	1.05	0.96	1.01	0.97	拡 0.09
	H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.95	0.07	
中学校3年生	国語	H30	0.99	1.04	0.97	1.00	1.00	拡 0.07
	H29	1.00	1.03	0.97	0.99	1.00	0.06	

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

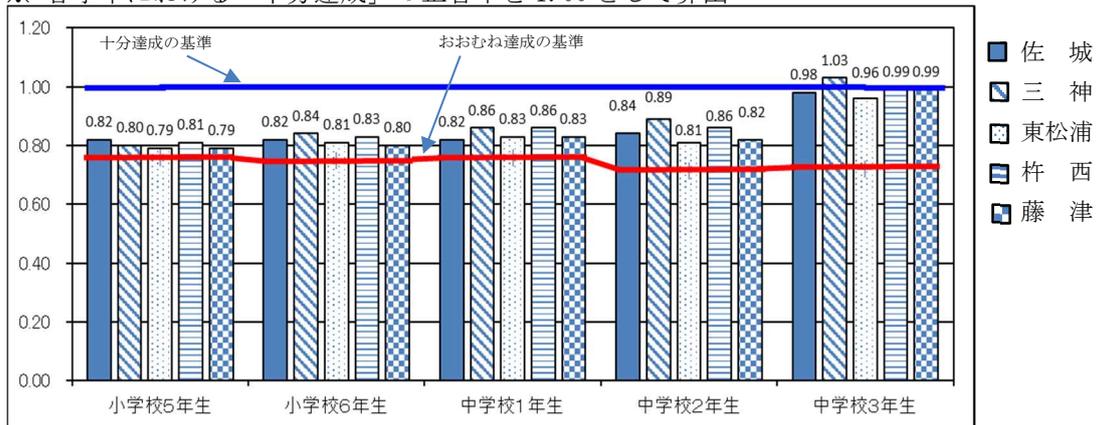
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成29年度調査より地域差が拡大した学年を、「縮」は縮小した学年を示す

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町